



- 6. 3. 29

## 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

福祉部		法人名 社会福祉法人おもと会	代表者 石井 和博	法人・事業所の特徴	当施設の特色は、公共の公園が隣接しているため、四季折々の花が満喫できる事です。天気の良い日には、散歩に出かけると地域の方々とも触れ合うことができます。また近隣には保育園があり、園児たちの声で毎日のように賑わっています。				
事業所名 小規模多機能ホーム寄宮		管理者 稻嶺 達男							

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	0人	0人	1人	2人	1人	4人	0人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・利用者の送迎時に忘れ物が多い為、利用者ごとに忘れ物チェック表を作成する。	全員分は作られていない。但しチャットを使って全員で連携し、更に苦情受付にも反映することで忘れ物が減るようになった。	職員間で何度も話し合ってきたのが良かった。ミーティングでも実施⇒修正⇒反省を繰り返し来た点でいい結果が得られた。	新卒の職員を初めて採用した。ミーティングや定例会では新職員も含めた全員で積極的発言ができる。
B. 事業所のしつらえ・環境	・今後も継続してイルミネーションや花壇整備などを通して景観の維持を図る。	担当者がきれいに整備してくれたと思う。見学や面会では「とてもきれいな建物ですねやいつできたんですか」聞かれる。	駐車場が広く入りやすい印象。地域の方がいつか利用したいと話があった。イルミネーションを最近知った。	東側の道路に面した花壇を全面活用し、地域の方や通行する方々にとって楽しい道路にする。 2階ベランダの鉢植えを実施し、利用者が見たり触れたりすることできる。
C. 事業所と地域のかかわり	イルミネーションの取り付け作業時や草刈り作業時に、通行する地域の人とのコミュニケーションで、地域の心配な人を発見することができた。今後も地域の人に挨拶ができる職員を目標にする。	職員で情報共有していた地域の心配な方が事業所の利用者になられた。職員全員が地域の心配な方に関わったことが初めてだった。	夜イルミネーション見たけどきれいね。職員はよく挨拶してくれます。面会を受け入れてくださり、助かっています。送迎時には地域の方に声掛けをしている。	地域の保育園との交流を職員が企画し関われるようになる。 感染対策をしっかりして何時でも面会ができる。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	・自治会のふれあいデイサービスに利用者と共に参加し、定期的に交流を図る。	ふれあいデイサービスと利用者の利用日が合わず、参加できなかった。自治会の行事予定を把握できていなかった。	利用者の買い物に付き添ってあげているのはいいと取り組み。利用者をドライブに連れて行ったのもいいと思う。地域の心配な方に職員が関わることができたのは良かった。	地域で開催される認知症カフェに利用者とともに参加し交流を図る。
E. 運営推進会議を活かした取組み	・今後の運営推進会議は通常開催を実施し、地域の心配事や行事、～などをしてほしい情報を共有する。これらを実践できるように、自治会長との日頃からの交流を行っていく。	運営推進会議はメンバーを縮小してからの開催となった。地域の心配事は日頃からの自治会長との交流で確認することができた。～してほしい情報共有が出来ていなかった	運営推進会議には色々な職員が参加するのもいいと思います。 会議では色々相談する機会が作れ、事業所の運営の点で参考になることが多かった。	運営推進会議を通して運営上の相談を行うなど、利用者を支えていける参考にする。
F. 事業所の防災・災害対策	・長期の保存食と水の購入を行う。 /・地域の防災訓練に参加、事業所の防災訓練への参加依頼と相互に交流を深めるとともに、運営推進会議で報告ができるようにする。	保存食・水・緊急トイレ・救急セットの購入ができた 地域の防災訓練に参加することはできなかったが、「R5 沖縄県広域地震・津波避難訓練」をグループ内で実施した。	備蓄量は今後適正か再度検討し今後の防災対策に活かしていく。 BCP 発動した研修が今後必要になっている。	BCP 発動した訓練や研修の実施。 災害時の備蓄量及びその他必要物資の再検討。